

Ⅲ. 留学交流支援

1. 受け入れ支援

センターでは、留学生の受け入れ支援を積極的に行っている。本学が国際交流協定を締結している5つの大学から受け入れている特別聴講学生をはじめ、学部・大学院の正規留学生、研究生など、多くの留学生が日本での生活や本学での勉学がスムーズにできる環境整備を支援している。

また、留学生受け入れのためのプログラム策定も行っている。本年度は、日本語日本文化研修プログラム、短期研修留学生プログラム、教員研修留学生プログラムの3つを策定した。

日本語日本文化研修プログラムには、2009年4月から2010年3月までの受け入れが3名、2009年10月から2010年9月までの受け入れが7名、2009年1月から2010年12月までの受け入れが2名であった。この内訳は、協定校の大邱教育大学校（韓国）3名、東北師範大学（中国）3名、CQU大学（オーストラリア）2名、フロリダ州立大学（アメリカ）3名、文部科学省推薦による日本語・日本文化研修留学生の計12名である。

短期研修留学生プログラムには、2009年10月から12月までに4名を受け入れた。4名は、協定校のペルージャ外国人大学（イタリア）の学生（イタリア国籍2、ポーランド国籍2）である。

教員研修留学生プログラムには、2009年4月から2010年3月まで、2名の留学生が参加した。国籍は、中国1名、バングラディシュ1名である。本年度のプログラムには、宮城県及び仙台市内の小学校を訪れ、留学生に自国の文化などを紹介するなど、国際理解教育の活動を取り入れた。また、本センターが出講している「多文化理解」の講義では、日本人学生に向けて自国の教育事情を報告するという活動も行った。

2. 送り出し支援

センターでは、留学生の受け入れのみならず、日本人学生の派遣留学にも力を入れている。本年度は、アメリカ・フロリダ州立大学に1名（2009年9月～2010年5月）、オーストラリア・CQU大学に1名（2009年1月～11月）、イタリア・ペルージャ外国人大学に3名（2010年2月～3月）アメリカ・ウェスレー大学に4名（2010年3月）、に計9名を派遣した。

センターでは、派遣留学を推進するために必要不可欠な語学力の強化にも力を入れている。本年度は新しい試みとして「はじめてのTOEFL講座」を7月23日と30日に2回連続で開講した。留学指導などを行っている専門の講師に依頼し、TOEFLとは何か、試験問題の実際、試験対策を中心に指導してもらった。参加者は、派遣留学を目指す5名（1年次3名、2年次2名）で、熱心に受講し、講座の評価も高かった。

また、派遣留学ガイダンスも1年生と2年生を対象に、本年度は、4月、5月、7月の

合計3回行った。さらに、帰国した学生の生の声を聞いてもらうため、「留学体験報告会」を企画し、4回実施した。1回目は6月2日にペルージャ外国人大学（留学体験者2名）、2回目は6月8日にフロリダ州立大学（留学体験者1名）、3回目は6月9日CQ大学（留学体験者2名）、4回目は10月20日にフロリダ州立大学（留学体験者1名）である。この報告会では、留学体験者を囲んで、現地での勉強や生活の様子などについて話を聞く。留学に興味のある学生は、留学体験者に留学に関する不安や悩みなどを直接質問することができる。また、報告者にも、留学体験を振り返るよい機会になる。今後もこうした報告会を継続し、派遣留学を促進していく予定である。

学部教育として出向している「海外総合演習」は、オーストラリア・CQU 大学で行い、2009年2月22日～3月7日までの14日間、学生14名、引率教員2名が参加した。

また、特別研究経費の支援により、本年度も「オーストラリア小学校インターンシップ研修」を企画・実施した。期間は2010年2月16日から3月11日までの24日間で、学生6名、引率教職員3名が参加した。

3. 交流促進支援

センターでは、留学生と日本人学生との交流を促進する行事等の企画も行っている。

本年度は、「グローバルカフェ」(11月14日)、「日本語スピーチコンテスト」(12月1日)、「留学生を囲む会」(12月17日)を実施した。

また、留学生が日本語や日本文化を理解するためのチューターの選出やチューターと日本人学生との交流を積極的に進めるために、双方の悩みを聞き、問題解決を促す相談にも積極的に応じている。